

## 専門部の成果と課題

### (1) 成果

#### <授業改善部（授業改善）>

- 研究構想図の育てたい力を基に、授業改善への手立てや視点を話し合い、学級活動や体育科（保健）の授業改善を進めることができた。
- 授業の手立てや視点を話し合い、全体に共有したことで、教員の学級活動や体育科（保健）に対する授業の質の向上が図られた。

#### <授業改善部（年間計画）>

- 各学年のつながりや他の教科・領域との関連性を考慮した年間指導計画を見直したことにより、より一層、指導目標や内容を明確にすることができ、見直しをもった学習計画が立てられ、授業実践へと結びつけることができた。

#### <環境整備部>

- 年度当初にテーマを決め、計画的に校内の掲示物を作成したことで、児童の健康に関する興味関心を高める手立てとなった。
- 教職員が児童会活動のねらいを共通理解し、指導を行うことで、児童会活動を通して、児童が芝原小学校をよりよくするために何ができるのか考え、課題を解決しようとする主体的に取り組めるようになってきた。

#### <生活習慣部>

- 年に5回、「げんきチャレンジ」の取組を行った。めあてを家庭で決め、学校が見守りながら実践することで一人ひとりの今の課題を把握することができ、問題意識をもってよりよい生活を築こうとする様子が見られた。
- 家庭と連携を図るお便りの発行や学校保健委員会の充実、学級懇談会の在り方を工夫したことで課題を共有することができ、学校・家庭・地域が一体となって取り組もうとする意識が高まった。

### (2) 課題

#### <授業改善部（授業改善）>

- 学級活動や体育科（保健）の授業としての手立てや視点は得られたが、「ヘルス・プロモーション」という視点に立っての話合いは十分に行われていない。
- 今後は、「ヘルス・プロモーション」についての視点、つまり、「どう地域を巻き込んで授業を展開するべきか」という視点に立ち、その手立て等を講じていく必要がある。

#### <授業改善部（年間計画）>

- 学習指導要領の改編や、学校行事の変更、児童の実態に伴い、毎年指導内容の精査や確認が必要である。学校保健部だけでなく全職員で次年度に向けて確認し、周知していく必要がある。

<環境整備部>

- 心身共に健康な生活を送るために児童が主体的に活動を行うには、今後も継続的な教師の指導や支援の必要がある。
- 次年度も継続できるように校務分掌ごとの連携を図り、年間指導計画に位置付けていく必要がある。

<生活習慣部>

- アンケート結果でも意識は高まってきているが、習慣化のためには今後も継続的に、げんきチャレンジなどの取組を行う必要がある。
- 「ヘルス・プロモティング・スクール」実現のためには、今後も学校から家庭や地域によりよい生活について発信していく必要がある。

《ご指導いただいた先生方》

スポーツ庁政策課 教科調査官 文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 健康教育調査官	森 良一 先生
さいたま市教育委員会健康教育課 主任指導主事(兼)係長	荒井 宏之 先生
さいたま市教育委員会健康教育課 主任指導主事	持木 信治 先生
さいたま市教育委員会健康教育課 指導主事	笹尾 章 先生
さいたま市教育委員会健康教育課 指導主事	水村 吏香 先生

《研究に携わった本校職員》

<平成29年度>

校長 上原 善一	教頭 古屋 敏彦	教務主任 関口 達哉
1年 ☆松本 庸子	猪俣 啓太	押野由美子 牧野 奈穂
2年 ☆佐藤 三喜	杉野 裕美	徳世 翠 ★安齋 卓彌
3年 牧野 明弘	高橋美樹子	☆梶原杏妃子 是枝 沙耶
4年 ☆林 竜矢	志水 栞	松川 弘子 ☆宮本 桂子
5年 上村 寧	岸 成美	山本 明彦 ☆小松 未来
6年 ☆清水 則仁	山本 秀	青柳 美紅 青木 俊樹
本部 金子 美奈	横須賀 篤	生駒 卓也 飯坂 幸子 井原 隆
野邊 祥子	☆櫻岡 幸恵	☆岡田亜由美 高橋 章 高橋ふよう
中村 政之	新井 有子	田中 寛 高橋 栄市 天野 薫
渡邊 文子	牛山 佳久	石井 美枝 舟山 清美 太田 美和
山本 公子	武川 有子	ガラディマ・スー 矢部 政行 高藤 敦子
小池 裕美		★研修主任 ☆研修推進委員

<平成28年度>

校長 豊島 登	金次 淑子	長谷部佑太	富永 洋子	渡邊久美子
岡 美希	清水えりか	嶋村 敏明	永井 愛美	大野 裕子
森田 謙二	帆刈 雅子	ウォーレン・デイビス		